

平成24年度 出雲市自然環境調査の結果を紹介します

出雲市では、市内の自然環境の状況を把握し、各種の施策に活用するため、野生生物を対象とした調査を実施しています。

平成24年度は希少水生生物・外来水生生物・希少種の鳥類について調査を行いましたので、その成果の概要を紹介します。



○調査の対象

この調査では、いくつかの生きものを主な調査の対象としていますが、同時に確認された生きものをできるだけ記録するようにしています。

これは、調査を行うと、対象外の希少生物（レッドデータブックの掲載種など）や外来生物（外国から入って来た生きもの）が見つかる可能性が高いからです。また、現時点では普通にみられる生きものでも将来少なくなってしまうことがあるため、生息の状況を記録しておくことは重要です。さらに、一般に生きものの種数や個体の数が多いほど自然環境が豊かであるとされ、生物多様性ともよばれます。できるだけ多くの種を記録することは、出雲市の生物多様性の解明にも役立ちます。



平成24年度の水生生物の調査地点
(全46地点)

○確認された生物

平成24年度の調査で記録された生物の全種数は117種です。

その内訳は、鳥類22種、爬虫類^{はちゅう}4種、両生類5種、魚類6種、巻貝8種、二枚貝1種、甲殻類^{こうかく}7種、昆虫類63種、その他1種です。



タガメ

○調査1-希少水生生物

平成24年度は、出雲市に生息するタガメとモリアオガエルに注目して調査を行いました。

タガメは、46地点のため池の中で1地点のみ確認できました。近年、島根県内でもタガメはますます希少な生きものになってきていますが、出雲市内でも生息場所が少なくなっていることが確認されました。ただし、出雲市内すべての池を調べたわけではないので、この1地点だけにしかない、ということではありません。

モリアオガエルは、46地点のため池の中で9地点が確認できました。これまでの出雲市内での生息状況の調査結果からみて、やや少ない地点数です。モリアオガエルは池だけでなく田んぼでも繁殖しますので、単にため池での確認数が少なかったとも考えられます。

このほか、島根県版レッドデータブックや環境省のレッドリストに掲載されている20種が確認されています。



モリアオガエルの卵

○調査2-外来水生生物

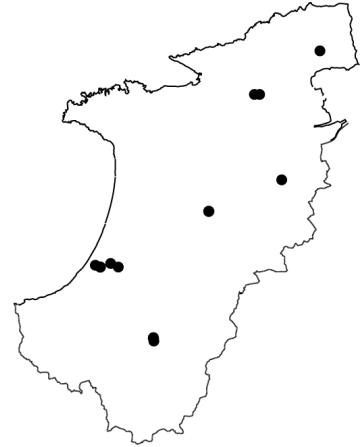
平成24年度はため池に生息するミシシippアカミミガメに注目して調査を行いました。46地点のため池を調べたところ、確認されたのは1地点のみとなりました。調査を行った丘陵地や山間のため池には、在来種のイシガメやクサガメが生息していて、ミシシippアカミミガメが生息していないということは、すばらしいことだと言えます。出雲市内のミシシippアカミミガメは、生息場所が平野部の水路などに限定されているようです。

このほかの外来生物としては、サカマキガイ、アメリカザリガニ、トガリアメンボ、ブルーギル、ウシガエルが確認されています。



ミシシippアカミミガメ

トガリアメンボは近年、出雲市内で急速に広まっているアジア原産のアメンボです。増えている原因はよくわかっていませんが、在来種のアメンボと競合する可能性があるため、今後の動向をみていく必要があります。



市内のトガリアメンボ確認地点

○調査3-鳥類

鳥類調査では、島根県版レッドデータブックに掲載されている種の中で、ため池と河川を対象に選定した20地点について希少種であるオシドリ（準絶滅危惧）の生息実態調査を行いました。平成24年度の調査では、山地地域から里地地域だけでなく、平地地域に近い丘陵地でもみつけられました。夏季にオシドリを確認したのは、5カ所、計15羽であり、確認した環境はすべてため池でした。また、冬季には5カ所、計85羽のオシドリを確認し、ため池だけでなく河川（神戸川）でも見られました。オシドリはドングリを食べる変わったカモの仲間です。ドングリがなる樹木に囲まれ、あまり人が近づかない池などにすみます。オシドリは、このような水辺環境が市内に残されていることを示しています。



オシドリのオス（上）とメス（下）



平成25年3月

発行：出雲市文化環境部環境政策課

受託：公益財団法人ホシザキグリーン財団